

② 西の浦線

- 平成 20 年 3 月に昭和自動車(株)から路線廃止の申し出がなされたが、地域、交通事業者、市で対応を協議し、減便による収支改善や利用促進などに取り組み、令和元年 7 月には、二見ヶ浦経由伊都営業所へ延伸し、運行が継続されている。
- また、令和 6 年 9 月から主要観光スポットに限定し停車する快速系統が新設された。
- 地域、交通事業者、市でまとめた「西の浦線活性化方策(平成 28 年 3 月)」に基づき、3 者で共働し、バス旅など、沿線施設と連携した利用促進などに取り組んでおり、利用者は増加傾向にある。
- 引き続き、路線の維持・活性化に向けた取り組みを進めていく。

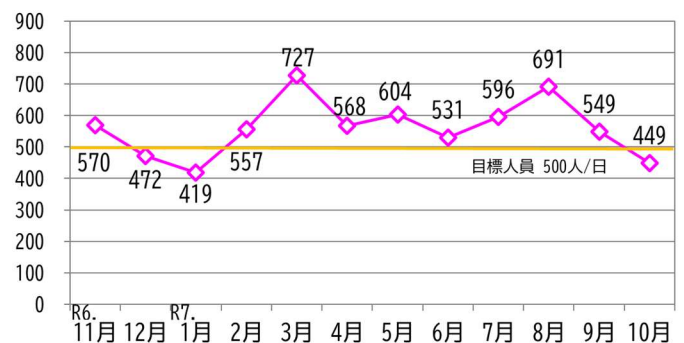
<西の浦線路線図>



<運行本数>

平日 22.0 往復
土日祝日 19.5 往復

<1 日平均利用者数 (人/日) >



③ 賀茂藤崎線

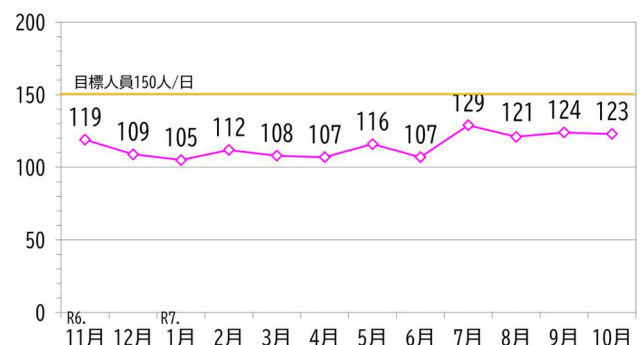
- 平成 22 年 3 月に西日本鉄道(株)から路線廃止の申し出がなされたが、地域、交通事業者、市で対応を協議し、減便や運賃の見直しによる収支改善などに取り組み、廃止予定日を延長し運行が継続されている。
- 利用者数が目標に届かない状態が続いており、地域、交通事業者、市が共働して、ギャラリーバスの運行や利用促進チラシの配布などを実施しており、引き続き、路線維持に向けた取り組みを進めていく。



<運行本数>

平日 18 便
(上り 8 便、下り 10 便)
土曜 18 便(9 往復)

<1 日平均利用者数 (人/日) >



支援路線の利用促進の取組み（令和7年1月～令和7年12月）

西の浦線（昭和バス）

○沿線施設と連携した利用促進の実施



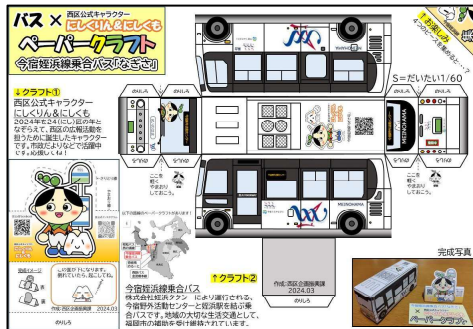
壱岐南のるーと（西鉄バス）

○地域イベントと連携した利用促進



今宿姪浜線（姪浜タクシー）

○区と連携した利用促進の実施



金武橋本線（西鉄バス）

○沿線施設と連携した利用促進の実施



板屋脇山線（飯倉タクシー）

○利用ガイドの配布

板屋脇山線 乗合タクシー

予約方法

- ① 板屋タクシーへ電話（24時間受付092-872-3131）
（受付は平日午前8時～午後5時まで）
- ② 予約内容
 - 希望の乗合タクシーの予約日・区間
 - 利用日時（何時の、何車で）
 - 乗客数（几人乗用で）
 - 利用人数（何人利用するの）
 - ※ご自分の名前、連絡先を伝える。

運行日・出発時刻 ※下画像が今日の所要時刻です

○ 旗山方面（月・火・水・金・土曜日）

板屋脇山線	旗山・宇佐宮
9:20 発 → 9:50 迄	9:10 発 → 9:40 迄
13:50 発 → 14:20 迄	12:40 発 → 14:50 迄

旗山・宇佐宮 → 板屋脇山線

12:40 発 → 13:10 迄	12:40 発 → 13:10 迄
16:50 発 → 17:20 迄	16:40 発 → 17:10 迄

▼ 翌日方々（木・日曜日）

板屋脇山線	中ノ島・旗山線
9:40 発 → 10:30 迄	9:40 発 → 10:30 迄
15:30 発 → 15:50 迄	15:30 発 → 15:50 迄

中ノ島・旗山 → 板屋脇山線

10:30 発 → 10:50 迄	10:30 発 → 10:50 迄
16:30 発 → 16:40 迄	16:30 発 → 16:40 迄

利用ガイド
（乗客側）

定価

大：500円、小児（小学生）：半額約250円

乗降場所

一 板屋脇山駅
二 旗山
三 中ノ島
四 旗山・CA 駅前

地図参照

板屋タクシー 予約専用ダイヤル

092-872-3131

車中花見時間1時間前までに予約します

*本日は板屋・旗山・中ノ島・旗山・宇佐宮間の乗合タクシーの運行が中止となります。*本日は板屋・旗山・中ノ島・旗山・宇佐宮間の乗合タクシーの運行が中止となります。*

志賀島島内線（西鉄バス）

○利用促進チラシの配布



○バス旅の実施



賀茂藤崎線（西鉄バス）

○利用促進チラシの配布



○ギャラリーバスの運行



曲淵線乗合タクシー（飯倉タクシー）

○区と連携した利用促進の実施



脇山支線（西鉄バス）

○ギャラリーバスの運行



5. オンデマンド交通社会実験

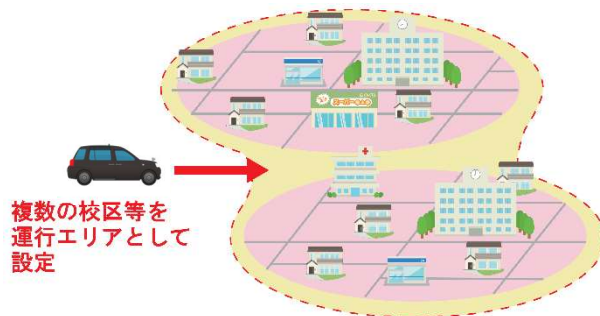
高齢化の進展などに伴い、公共交通が不便な地域における買い物や通院などの生活交通確保が課題となる中、持続可能な生活交通確保の仕組みづくりに取り組むため、令和4年度より、オンデマンド交通社会実験を実施している。

(1) 社会実験の概要

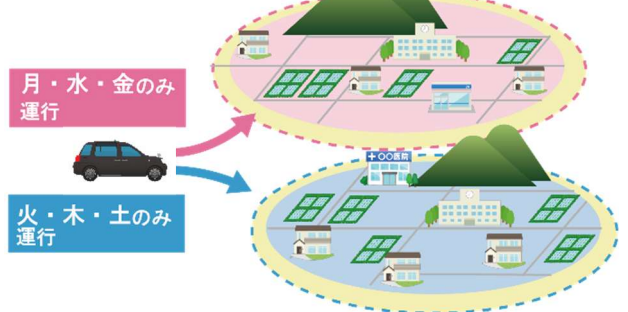
予約に応じて効率的に運行する「オンデマンド交通」を活用し、複数校区等での広域運行や曜日別運行などの運行内容の工夫をはじめ、運賃外収入の確保の工夫に取り組んでいる。

<運行内容の工夫イメージ>

広域運行



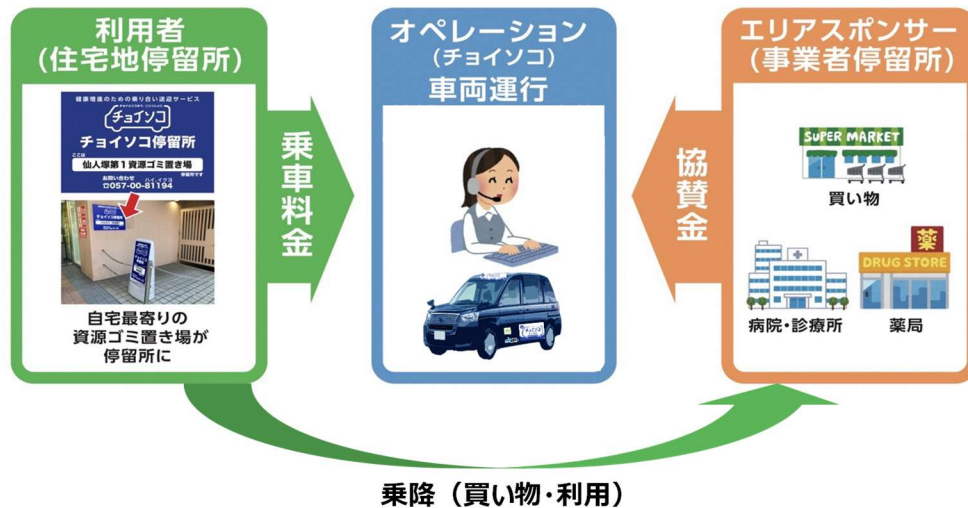
曜日別運行



※2つ又は3つの地区で曜日を組み合わせて運行

<運賃外収入の確保の工夫イメージ>

エリアスポンサー制度：スポンサー事業者からの協賛・広告で運行費の一部を支える



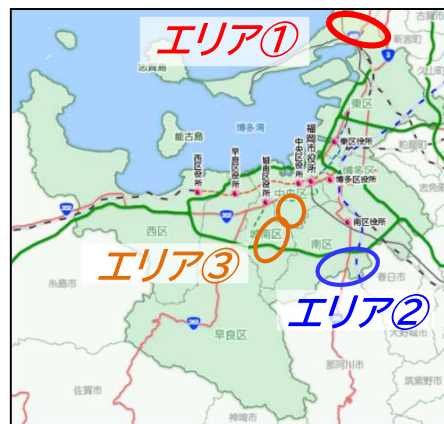
<生活交通に関する住民意識調査（令和元年度 高齢者対象）>

- ・居住地の公共交通は全体で約8割の方が概ね便利と回答
- ・外出頻度はそれほど多くない（週2～3回）が日中の買い物等の移動がある
- ・年齢が高くなるほど無理なく歩ける距離は短くなる など

(2) 各エリアの取組み概要

市と共働で運行内容の検討や利用促進等に主体的に取り組む地域・交通事業者をそれぞれ募集のうえ決定し、市内3エリアで社会実験に取り組んでいる。

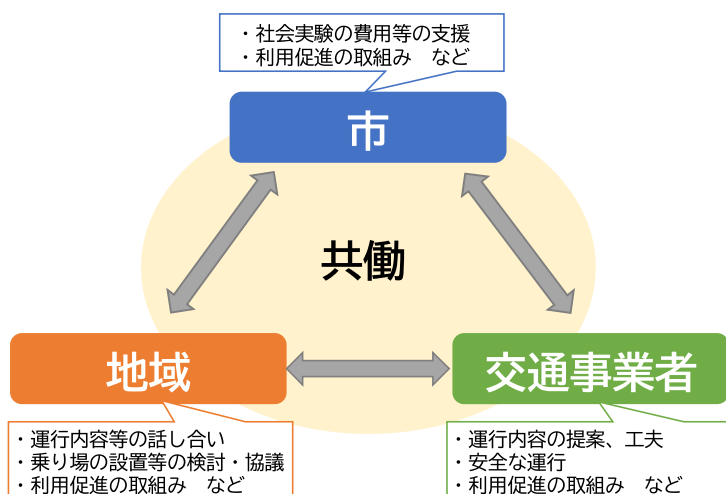
各エリアで地域・交通事業者・市による運行協議会を設置し、運行内容や利用促進等を検討・実施しており、令和4年11月から、順次、運行を開始し、三者共働で取組みを進めている。



<各エリアの運行概要>

エリア	エリア①東区 美和台・和白東・三苦校区	エリア②南区 老司・鶴田・弥永西・ 弥永・日佐校区	エリア③中央区・城南区 赤坂・草ヶ江・小笹・ 長尾・七隈・金山・片江校区
運行内容	広域運行		曜日別運行
実施体制	(株)アイシン （企画・システム構築等） 第一交通産業(株) （運行マネジメント） (株)第一交通 （運行、車両管理）	(株)アイシン （企画・システム構築等） 第一交通産業(株) （運行マネジメント） 福岡第一交通(株) （運行、車両管理）	
システム名	チョイソコ		
運行日	平日（月～金） （土日祝・年末年始は運休）		平日及び土曜日※各3曜日 （日祝・年末年始は運休）
運行時間帯	8：00－18：00（ドライバー休憩 1時間含む）		
運賃設定	300 円/ 1 乗車・人 ※エリア②南区：井尻駅・博多南駅付近は400 円 （障がい者・介護者1名・小学生は半額）		
使用車両	ユニバーサルデザインタクシー車両（乗客定員4人）		
運行期間	R4. 11. 24 ～ R8. 3. 31	R5. 1. 31 ～ R8. 3. 31	R5. 6. 28 ～ R8. 3. 31

<実施体制>



<運行協議会>



<使用車両>



(3) 社会実験の成果等

各エリアにおいて、地域や交通事業者、市の三者で共働し、利用促進など様々な取り組みを実施しており、これまで取り組んできた社会実験の成果等について、報告するもの。

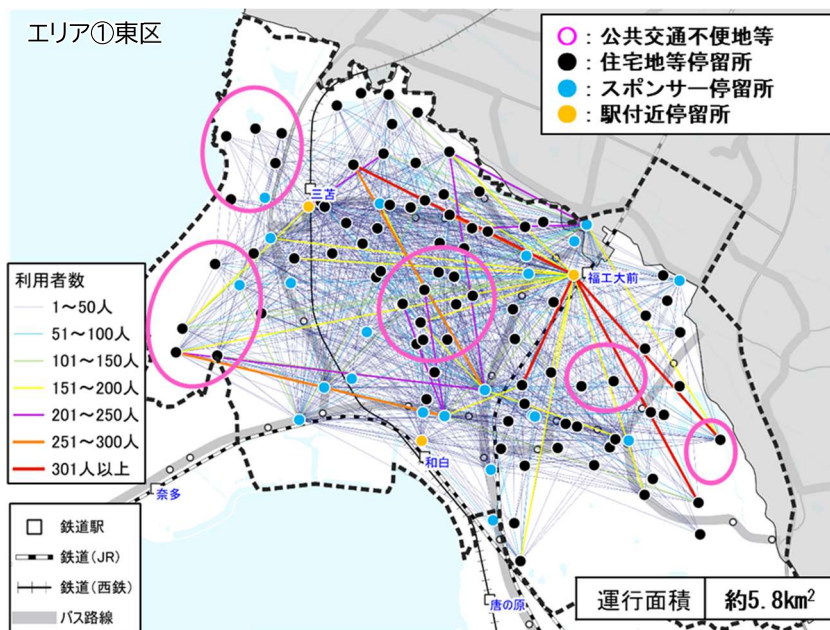
①オンデマンド交通の特徴

- ・地域の生活関連施設やバスでの運行が難しい住宅地などにも停留所の設置が可能で、公共交通不便地等における利便性が向上。
- ・小型車両で面的な需要を効率的に運行、複数校区・概ね5k㎡の広さ(1台)が効果的。

<停留所の設置状況>



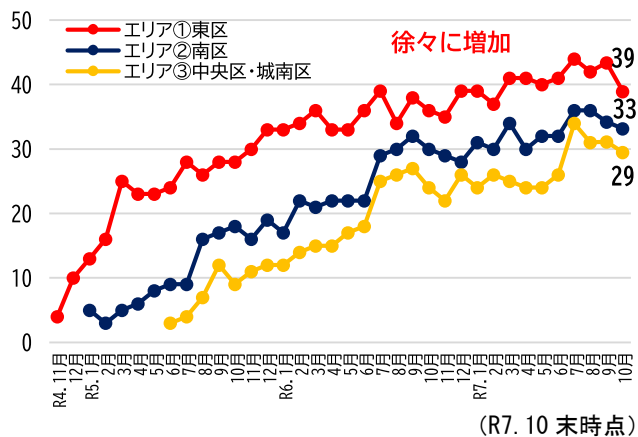
<OD図（利用者の乗降）>



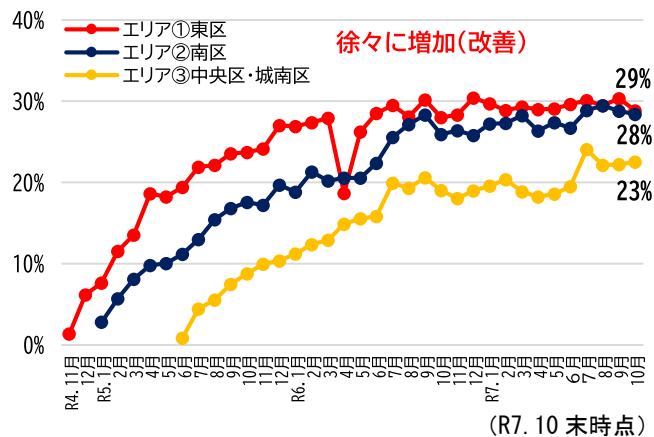
②利用状況等

- ・三者で共働した様々な取り組みにより、利用者数及び収支率は徐々に増加し、収支率2割以上となるものの、一定の期間を要する。

<利用状況（人/日）>



<収支率（%）>

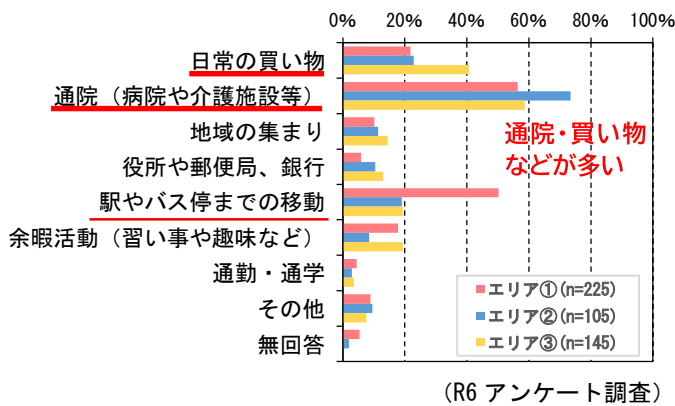


※収支率＝収入÷運行経費（初期経費・利用促進費除く）

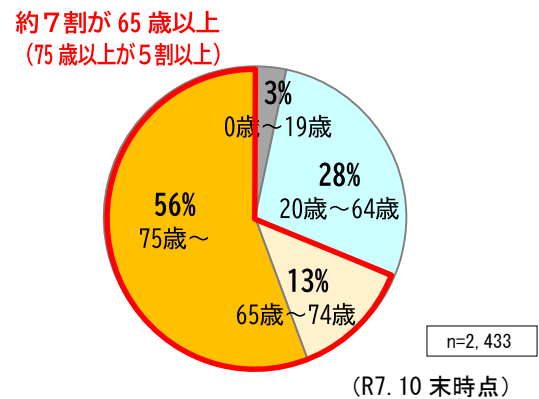
③利用者の特性

- ・利用目的は通院や買い物などが多く、利用者の約7割は65歳以上。
- ・利用者の約7割が免許返納等の非運転者で、導入により外出機会も増加するなど、高齢者を中心に日常的な交通手段の一つとなっている。

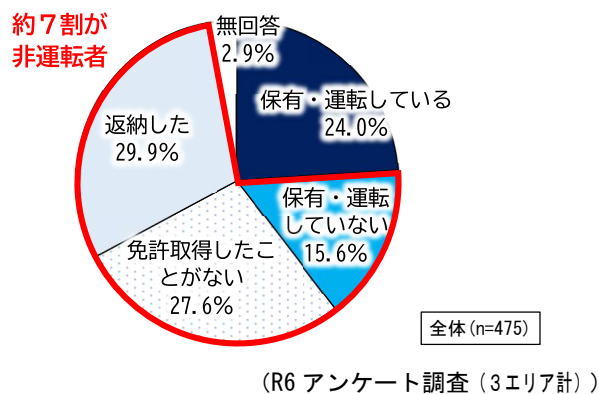
<利用目的>



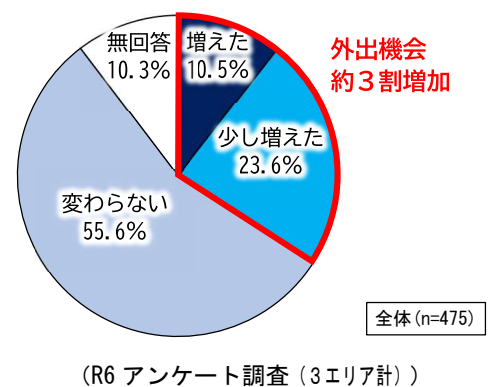
<利用経験者の年齢層>



<利用者の免許保有状況>



<外出機会の変化>



④三者共働の取組み

- ・持続可能な生活交通とするには、三者で役割分担のもと、それぞれが主体性を持ちながら共働して利用促進などに取り組むことが重要。

<主な利用促進等の取組み>



利用促進チラシ



地域説明会



地域割引券・ポイントカード

6. 不便地対策の支援拡充及び取組み状況

高齢化が進展し、生活圏の移動ニーズが高まる中、郊外部をはじめ公共交通が不便な地域における生活交通の確保が重要となっており、社会実験での成果などを踏まえ、令和7年6月に支援制度を拡充し、本制度も活用しながら、不便地対策に取り組むこととしている。

(1) 不便地対策の拡充

①支援の対象地域

公共交通不便地等（公共交通不便地、それに準ずる地域 等）を含む地域に拡充。

②支援の内容

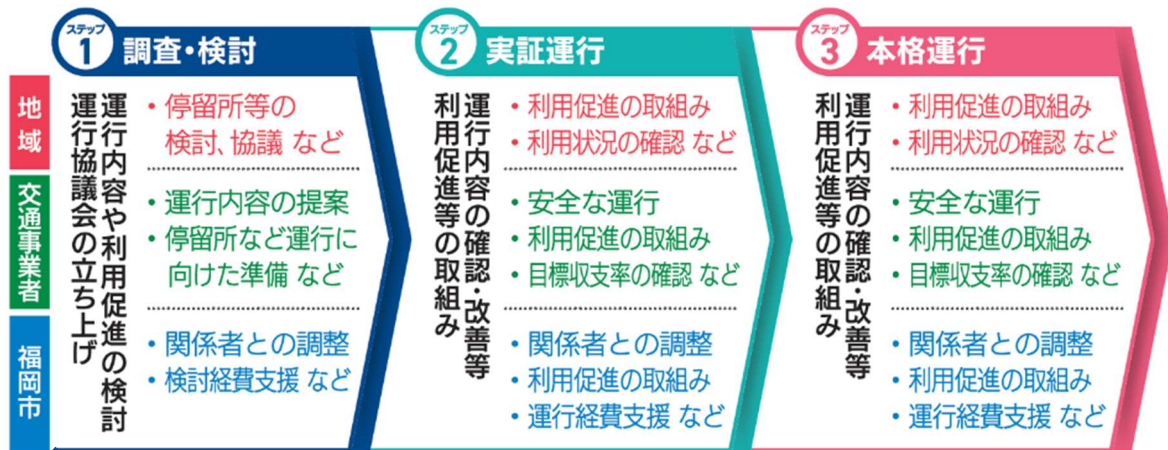
地域の取組みに対する検討経費を支援するとともに、交通事業者が実施する実証運行への補助・期間を拡充し、本格運行への補助を新設。

<支援の概要>

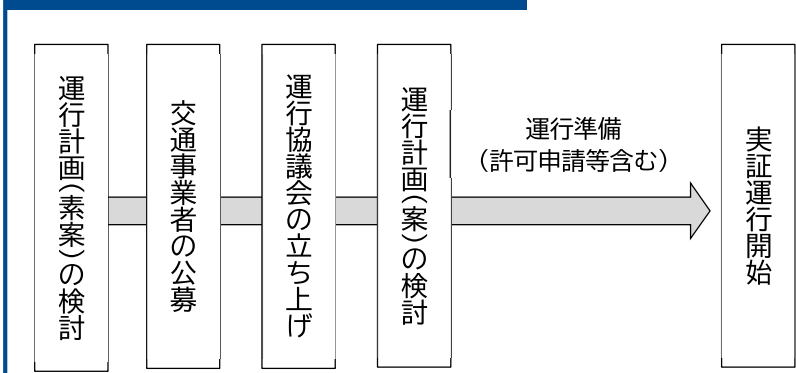


※目標収支率：社会実験の実績等を踏まえ、目標収支率（収支率＝収入÷運行経費（初期経費等除く））を設定。目標収支率に至らなかった場合には運行見直しを行うなど、収支率の改善状況を踏まえたうえで、運行の継続有無を判断。

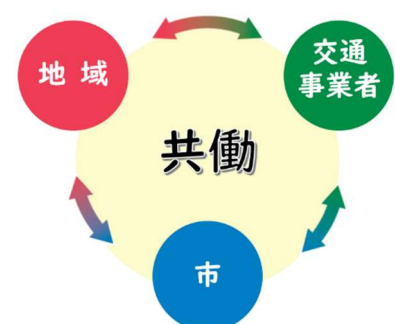
<取組みの流れ>



<ステップ1：調査・検討の流れ>



<取組みの実施体制>



(2) 地域応募の状況

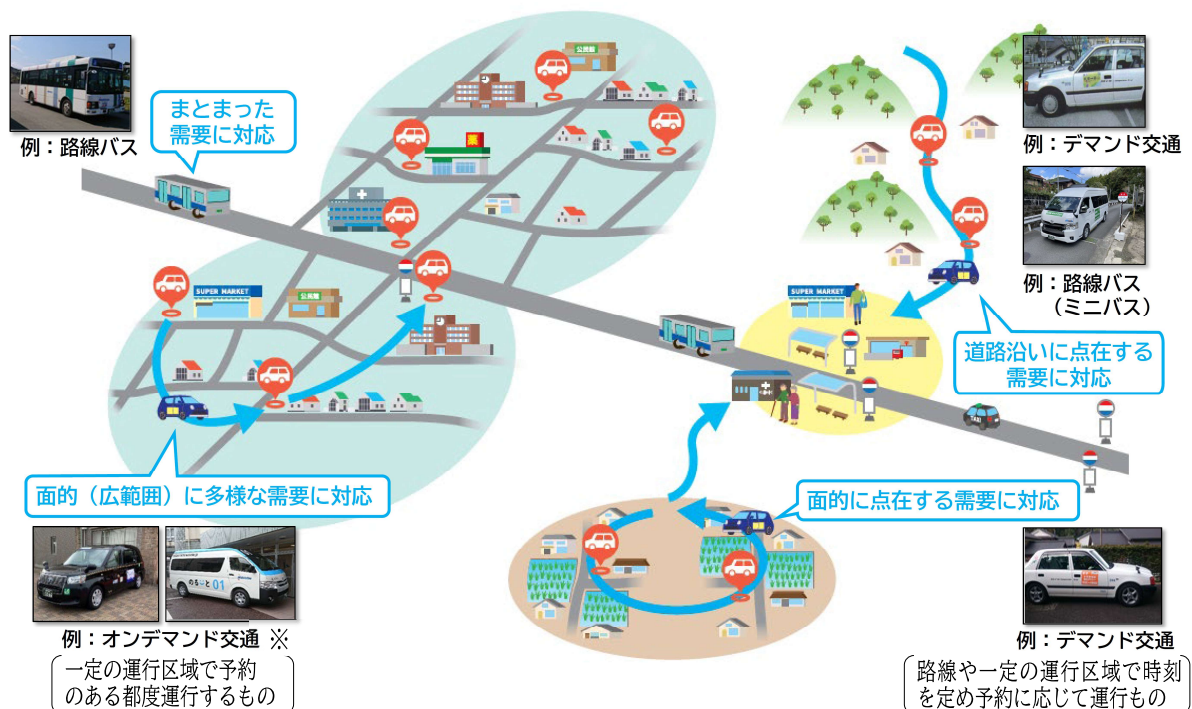
令和7年7月に、公共交通不便地等を含む地域を対象に、交通事業者や市と共働して生活交通確保に取り組む地域を募集した結果、44校区から応募があった。

<応募のあった地域（44校区）>

区	地域（応募申込団体名）	区	地域（応募申込団体名）
東区	美和台校区自治協議会	中央区	小笹校区自治協議会
	和白東校区自治協議会		笹丘校区自治連合会
	三苦校区自治協議会	城南区	長尾校区自治協議会
	和白校区自治協議会		田島校区自治協議会
	香住丘校区自治協議会		七隈校区自治協議会
	香椎東校区自治協議会		金山校区自治協議会
	香椎下原校区自治協議会		片江校区自治協議会
	八田校区まちづくり協議会		南片江校区自治協議会
	志賀島自治連合会 （勝馬校区・志賀島校区自治協議会）		堤地区自治協議会
	宮松校区自治協議会		堤丘校区自治協議会
南区	臼佐校区自治協議会	早良区	田隈校区自治協議会
	弥永校区自治協議会		入部校区自治協議会
	弥永西校区自治協議会	西区	早良校区自治協議会
	まちづくり老司協議会		壱岐校区自治協議会
	鶴田校区自治協議会		壱岐南校区自治協議会
	野多目校区自治協議会		壱岐東校区自治協議会
	東花畑校区自治協議会		金武校区自治協議会
	柏原校区自治協議会		今宿校区自治協議会
	西長住校区自治協議会		北崎校区自治協議会
	宮竹校区自治協議会（みやたけ会）		元岡校区自治協議会
	西高宮校区自治協議会		今津校区自治協議会
			能古校区自治協議会

<取組みイメージ>

- ・ オンデマンド交通に限らず、地域の実情に応じた持続可能な生活交通を確保



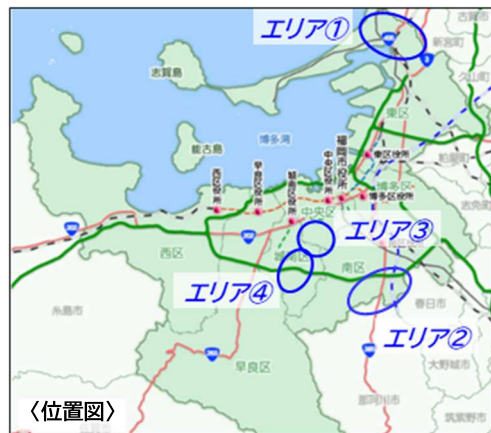
※オンデマンド交通：地域と協議のうえ、日常生活圏を踏まえ、概ね5km²の運行区域を基本に、地域を組み合わせ（組成）

(3) 各エリアの取組み状況

地域の実情に応じた持続可能な生活交通確保に向け、応募があった地域と交通手段などの協議・検討を行っている。

①既存取組地区（オンデマンド交通社会実験地区）

既存取組地区（4エリア）については、日常生活圏や利用状況などを踏まえた運行計画に基づき、交通事業者を公募のうえ決定しており、各エリアで地域・交通事業者・市において運行協議会を設置し、運行計画や利用促進策の検討など、令和8年度からの運行開始に向けた準備を進めている。



<既存取組地区の運行概要>

エリア	エリア①東区 美和台・和白東・ 三苫・和白校区	エリア②南区 鶴田・老司・弥永西・ 弥永・臼佐・野多目校区	エリア③中央区・城南区 小笹・笹丘・ 長尾・田島校区	エリア④城南区 片江・金山・七隈 ・南片江校区
実施体制	(株)アイシン (企画・システム構築等) 第一交通産業(株) (運行マネジメント) (株)第一交通 (運行、車両管理)	(株)アイシン (企画・システム構築等) 第一交通産業(株) (運行マネジメント) 福岡第一交通(株) (運行、車両管理)		
システム名	チョイソコ			
運行日	週6日（平日・土曜）			
運行時間帯	8：00－18：00（ドライバー休憩時間含む）			
車両台数	2台（2台目は8～13時のみ運行）		1台	
使用車両(提案)	ユニバーサルデザインタクシー車両（乗客定員4人）			
運賃(提案)	300円/1乗車・人 ※エリア②南区：井尻駅・博多南駅付近は400円 (障がい者・介護者1名・小学生は半額)			

※下線：社会実験時の取組み校区から追加

②新規取組地区

新規取組地区については、地域との話し合いのうえ、隣接する複数校区などで連携してオンデマンド交通に取り組む地域や、単独校区でデマンド交通に取り組む地域など、地域の実情に応じた交通手段などの検討を進めている。

引き続き、日常生活圏を踏まえた運行計画について、地域と協議・検討を行い、計画がまとまった地域から交通事業者の公募などに取り組んでいく。

(4) 今後の取組み

地域や交通事業者と共働して、運行内容や利用促進の協議・検討を行うなど、令和8年度からの順次、運行開始を目指し、取組みを進めていく。

7. 今後の進め方

生活交通の確保に向けた取組みについては、高齢化の進展などに伴い、重要性が高まっている。

一方、郊外部における人口減少やバス利用者数の減少に加え、近年の運転手不足など、公共交通を取り巻く環境は厳しくなっており、バス路線の維持が課題となっている。

このため、バスの利用促進や利便性向上、運転手確保策に取り組むなど、地域、交通事業者及び行政が共働して、公共交通ネットワーク維持に努めるとともに、持続可能な生活交通確保に向けた取組みの一つとして、令和4年度より、オンデマンド交通を活用した社会実験を実施している。

令和7年度からは、社会実験での成果などを踏まえ、公共交通不便地等における支援制度を拡充しており、本制度も活用しながら、取組みを新たな地域にも広げていくなど、引き続き、生活交通条例に基づく休廃止対策や不便地対策等を実施し、地域の実情に応じた持続可能な生活交通の確保に取り組んでいく。